

芦安ファンクラブ通信

第13号
春号

NPO法人
芦安ファンクラブ
中巨摩郡芦安村
芦倉 1589-8
事務局：(大滝)
055-288-2531

特定非営利活動法人「芦安ファンクラブ」 NPO 認定から一年通常総会開催

NPO 芦安ファンクラブ設立一年の通常総会が六月十九日夜、芦安「ふれあい館」で盛大に行われた。始めに花岡会長がこの一年を振り返り、「一回の登山教室の開催や全国ポランティアフェスティバルの企画、実施への協力、開山祭の定着化、そば打事業の自立化、南アルプス芦安山岳館建設への協力等の充実した活動状況の評価が内外に浸透してきている。短期間にこれだけの成果を挙げて来られたのもひとえに会員の弛まぬ努力の賜物であり、支援してくれた関係行政にも感謝をしたい。南アルプス芦安山岳館が完成した今はゴールではなく、スタートだ。今後新行政体制の中で地域の活性化と環境保護に力を注いで行きたい」と決意も新たな挨拶で開会した。

平成十四年度の事業報告、決算報告の説明後、十五年度の事業計画、予算案が発表され慎重に審議されなごやかな雰囲気の中にも充実した議事が展開された。新事業の特徴の一つに二回の登山教室が南アルプス芦

安山岳館との共催になった事が挙げられる。山岳館が単なる見学の場だけではなく、山岳基地芦安の拠点として生きた事業を展開して行く事を望みたい。

継続事業として近隣の里山登山道の再整備事業が挙げられている。以前手がけた櫛形山・芦安線も早く完全なものにして新市の中の「森林ネットワーク」として活用出来る事を願いたい。



南アルプス開山祭 開催予定 参加者大歓迎 六月二十八日(土) 金山沢こだま公園

新市になって初めての南アルプス開山祭が来る六月二十八日(土)、南アルプス市芦安金山沢公園で南アルプス市・夜叉神観光協会の共催、芦安ファンクラブの後援で開催される。本来なら北岳等の登山口で知られている広河原で開催されるが、今年は春先の度重なる土砂崩落の為に南アルプス林道の開通が七月下旬を予定しているからである。一部には縮小開催も懸念されたが南アルプスの表玄関はやはり芦安であり、鳳凰三山への登山者も多い等の強い意見から通常通りの内容で開催される事になった。

開山祭 六月二十八日(土)

開山セレモニー

九時三十分～十時

献花、合唱

十時～十時三十分

夜叉神太鼓演奏

十時三十分～十一時

「ザ・つる払い」

十一時～十一時十五分

昼食「手打ちそば」

十一時二〇分～十三時

参加料は無料ですが記念品セット(記念バッジ・手打ちそば券・南アルプス芦安山岳館入館券)を五百円で御用意しています。昼食のてんぷら入り手打ちそばは甲斐ヶ峰庵の皆さんの実演による打ちた



メインイベントの「つる払い」

本日平成十五年六月二十八日を南アルプスの開山祭と定め、御池の主神大竜権現の神併せて周囲の山々の大天狗、子天狗の神々に今年の善良なる入山者の全てが無事故のこと、わが里芦安の活性化と我々が甲斐の国の繁栄を、我々山案内人衆が信者に成り代わり御請願申し上げ奉る。多くの先人の偉業を永く思い語り、豊かな自然を後世に残し継ぐ事を宣言し、我等は開山の蔓を払うなり。

芦安地域区長会長

第八回南アルプス 芦安登山教室開催

される！

五月二十四、五日の二日間、恒例になつてきました南アルプス芦安登山教室が大勢の参加の中で行われました。

今回の登山教室から、主催に南アルプス芦安山岳館が加わりました。山岳館の職員を代表して参加者の皆様のご協力に感謝とお礼を申し上げます。

五月二十四日に行われた研修会は、市内で活躍中の桃源交響楽団のすばらしい演奏から始まり、青木支所長の歓迎の挨拶の後、葦崎白鳳会顧問である山寺仁太郎氏の講演がありました。甘利山の歴史、伝説、大ナジカ峠の名前の由来など、とても貴重な話を聞かせていただきました。八十四歳の高齢にもかかわらず、まだまだ現役で山歩きをされている事には皆さん驚かされました。南アルプス消防署員による緊急時の蘇生法やセルフレスキューの研修は以前の参加者から要望が多かつたものです。模擬人体を相手に、スッタモンダではなく、吹いたり押したり一生懸命でした。その皆さんの受講ぶりはNHKのニュースで流されました。また終了後には山岳館にも足を運んで熱心に觀賞していただきありがとうございました。

翌二十五日の登山では、甘利山 千頭星山 沓沢のコースを歩きました。今回の登山教室は、廃れてしまった登山道を作りなおすという面白い企画でした。芦安ファンクラブの方々は五月五日、十一日、二十一日と計三回下見を行いました。間くところによると下見は困難を極めた

よつです。八時に甘利山の登山口を出発しました。登山道を整備するための道具（鎌、鉋、鋸を班ごとに分担して持ちました。私は恥ずかしながら甘利山、千頭星山ともに初めての登山でした。甘利山のツツジはまだ咲いておらず、あらためてツツジが咲くころ登りたいと思つています。甘利山から千頭星山への途中ミネザクラ、ミツバツツジなど綺麗な花が咲いていました。



熱心に蘇生法を学ぶ参加者

千頭星山の頂上の少し手前から鳳凰三山の薬師岳、観音岳、地藏ヶ岳が綺麗に見えました。二つのピークを手前に置いてすつくと立つ地藏仏（ウエストンピーク）は、鳳凰山の奥の院のようでした。山寺氏の「甘利山」は、この山の信仰の歴史や、三つのピークをめぐる山名論争が今も続いていることが紹介されています。千頭星山で、昼食を摂り、記念写真を撮りました。皆さんの笑顔が印象的でした。

千頭星を下る途中で今回の登山教室の

先人たちの思いを感じながら「ホンデーラ」を歩く

目的である登山道の整備をしました。大鎌、鉋、鋸を班ごとに分担して持っていたので主に大鎌や鉋を使い笹を刈りました。ほとんどの人が初めて大鎌に触れ、うで手つきが危なっかしかったです。登山にしては珍しく全行程の三分の二が下りでした。今まで登山をしてきた中で初めての経験で少し戸惑いました。大平（ほんでいら）の周辺は、昔は畑だったそう、苦労がしのばれ、石垣などから当時の人々の生活の跡を感じる事ができました。

作業に夢中になったせいか沓沢への到着は一時間近く遅れてしまいました。全員が無事に沓沢まで降りることができました。金山沢こだま公園へ移動し登山教室の終了証を渡し、六人の方に感想を話していただきました。宿泊所のとおりやさん、よしみさんからのビールとお茶の差し入れをいただき、渴いたのを潤しました。温泉にも入ることができ、疲れた体を癒すことができました。

五月二十八日、NHKで南アルプスの観光について考えるというテーマで芦安地区が取り上げられました。二十四、二十五日の登山教室の様子や開山祭のイベントコマージュが放送されました。

宮下重晴さん、奥山かがみさ



整備作用に汗を流す参加者

ん、千野智代美さん、清水ちま子さん、塩沢久仙さんが代表で出演し、芦安と芦安ファンクラブを大いに売り出しました。お疲れ様でした。私の父は大の山好き人間ですが、私はまだまだ初心者です。近くにあるすばらしいフィールドで鍛えながら、山岳館を葦崎に作りたかつたと言つていた山寺仁太郎さんに、芦安に山岳館があつて良かったと言つてもらえるよう、多方面に努力していきたいと思つています。南アルプス芦安山岳館のご来場をお待ちいたして降ります。

南アルプス芦安山岳館職員

深沢剣一記

山岳遭難防止「大久保基金」の会 定期総会開催

遭難防止対策「大久保基金」の会が六月六日南アルプス市芦安温泉ロッジ研修棟で、小笠原署小沢副署長他の来賓と多くの会員の出席によって開催された。この会は平成十一年十二月の発足から三年半を経過しようとしている。きつかけは一人の山好きな青年の遭難と残された老夫婦の暖かい人間性から生まれた。捜索に關つた山岳関係者が少しずつ資金を出し合い、こんな悲しい遭難を無くしたいこうとの思いから生まれた。大久保家からの多額な寄付が加わり、「大久保基金」の会としてスタートした。通常の活動としては、各シーズン始めに登山口についての安全指導や啓蒙活動を行い、不幸にして発生した遭難や事故には地元警察や行政機関と連携し、救助、捜索等に協力している。周辺の山小屋管理者、山岳関係者、行政関係者、県岳連関係者など、山の達人と言われる人達から構成されている。今年度の事業では安全登山の啓蒙活動の強化や登山道整備などに貴重な基金が運用される。少しでも、出来る事から実施して行こうとする意欲が感じられる。登山道整備については北岳山頂南直下部、第二ガレ場対岸基部、御池尾根道等の危険箇所が挙げられたが、今後調査を進めながら実施する予定だ。

登山者層の高齢化が進み、増加の傾向にある下山時の事故。骨折や捻挫も頻繁になつてきている。「緊急時には背負つて運ばなければならぬ。登山道としては最低限それが可能な状態が望ましい」昼夜を問わず怪我人搬送を余儀なくされている山小屋関係者の切実な声だ。この活動が山岳地域全体の登山道を見直すきっかけになつてくれる事を願いたい。

啓蒙活動はその時期の山の状況が明記された現実的なパンフレットや小冊子が考えられているようだ。幾多の遭難救助経験をもつ岳連関係者は「山を甘く見すぎている上に装備に頼りすぎている。都会感をそのまま山に引きずっている。」と近年増えている低山遭難の要因を指摘している。「組織に未加入な経験不測の初心者には後を絶たない。自分の軽率さや無理な行動がどれほど家族や関係者を悲しめる事になるかをもう一度考えて欲しい」遺族との接点が多い事務関係者は辛そうに訴えている。



冬季の搜索活動 北岳にて

遭難者の家族や関係者から遭難防止活動に役立てて欲しいとの基金への厚志が会員を精神的にも後押ししているようだ。「危険で地味な活動だが評価されている事が救いだ。当事者には悲しい山に思えるかもしれないがそのまま気持ちの中に固めてもらいたくない。我々との交流がやがて心の拠り所になつてくれる事を願っている」こんな会員の声は地元としての使命感と山を愛する強い気持ちが入り込められていた。

芦安ファンクラブ 手塚記

高山植物のポケットブック発刊 第3弾 仙丈ヶ岳編完成

南アルプスの女王 仙丈ヶ岳

なだらかな山容、柔らかな曲線のカール地形を持つ仙丈ヶ岳。厳しい自然環境に耐えて毎年変わらぬ可憐な姿で私達を迎えてくれる高山植物は登山者の疲れを一気に取り除いてくれる。筆者をはじめ撮影者達の優しい視線が垣間見える“歩きながら覚えるシリーズ”。静かに咲く花の話声が聞こえてきそう。

どこにいるのか、花の色、時期と順を追ってページをめくれば必ず探している花にたどりつける構成になっています。また、ポケットサイズで持ち運びも大変便利。

花との出会いも一期一会。楽しい山の思い出に登山道で出会った花の姿も刻んでみてはいかがでしょうか？



編集 特定非営利活動法人 芦安ファンクラブ
発行 山梨日日新聞社 出版部

定価 本体 952円 + 税

北岳の高山植物、夜叉神 鳳凰三山の高山植物も好評発売中！

日本高山植物保護協会「JAFFA」 通常総会開催

日本高山植物保護協会「JAFFA」の通常総会が六月八日南アルプス市芦安温泉ロッジ研修棟で、山梨県森林環境部みどり自然課青木課長補佐他の来賓と多くの会員の出席によって開催された。

開会で白旗副会長は「当初は南アルプスの山梨という一部の地域で始まった活動だったが今では全国的な規模で高山植物保護組織が動き出している。我々の活動が理解と評価を頂いている。これもひとえに会員の努力の賜物である」と挨拶。

みどり自然課青木課長補佐は南アルプス、富士山の世界遺産選考時の経緯を説明した後、選考委員長の言葉を引用し「今回は世界遺産の選考基準に照合した数値で計っただけ、選考に残れなかったからといって落胆する事はない。地域の夢としていかに大切に育んでいくかが重要だ」とすばらしい自然遺産を共に守って行こうと勇気付けた。

議事は十四年度の事業報告、決算報告、十五年度の事業計画、予算計画が審議され、通常活動の他、本年度はNPO化を目指す事などが原案通り承認された。議事終了後、高山植物フォトコンテストの優秀者の表彰が行われ、各支部の活動が発表された。

まだ設立から日の浅い伊那谷支部では、少ない会員ながら、中央アルプス・南アルプス西部の地元としてシーズン中のパトロールを欠かさない。昨年は六十八日を数えた。しかし現状は三百件を越す立ち入り禁止や踏み込み違反があるという。「すばらしい環境の中

でのボランティアのはずが山からストレ

スを運び下ろすはめになる」との嘆きも聞こえる。

三重県から兵庫県までが加入している大所帯の関西支部では法人部会による学習会などが活発に行われているが、五百名を越す一般会員の活動把握に苦慮しているようだ。



全国からの参加者を迎え盛大に総会が行われた。

静岡支部では聖岳周辺での鹿害調査、南アルプス高山植物保護ネットワークによる登山道整備、南伊豆のユウスゲの保護活動、天城のシヤクナゲの保護、指導員の養成等の活発な活動が発表された。

総会では会員の意見交換後終了した。総会から広範囲な組織による高山植物保護意識の大きなウェーブを感じた。しかし酸性雨や温暖化の自然環境の変化、踏み込み荒らしや盗掘の人的被害、野生動物の食物変化等、頑固な高いハードルがあることも現実だ。

そしてその波しびきの最前線で保護活動の為に汗を流している大勢の人達がいる事も忘れてはならない。

芦安ファンクラブ 清水 記

「あしやす」を生き言葉で伝え残そう

芦安の地域は今新しい流れの中で生まれ変わるうとしています。この地域は古い歴史と文化を現在に生かして生きてきました。

しかし近年の近代化や科学技術の進歩は人間の感覚をも追い越しそうな速さで移行しようとしています。

今、この時に、こんなにすばらしい人材が芦安地域にあるうちに、芦安の文化を残したい。何が何でも生きた言葉で残したい。こんなお願いです。

語り部と言っても深く深く考えることはありません。「芦安の歴史」「苦労してきた生活の話」「何もなかったけど楽しかったあの頃」「言い継がれてきた民話」「芦安の自慢話」「山の話」など何でもいいんです。自分の得意な部分を話して伝え残して欲しいのです。確かに辛い苦しい時代はありました。人には言えないような苦労もして来たでしょう。しかし長い時間はそれらの事を「思い出」と言う形に癒してくれていくはずですよ。

賛同してくれたメンバーは若干の学習後、(話の照合や選択と統一化)グループ的な活動を通して、語り部として活動していきます。

「語り部」として芦安の地域を語り継いでくれる人を募集します。



活動拠点は南アルプス芦安山岳館 語り部「コーナー」になりますが、当面は皆さんが集まりやすい場所を考えています。

申し込み・問い合わせ先

「芦安ファンクラブ」事務局
大滝 055・288・2531

「南アルプス芦安山岳館」
深沢 055・288・2125